受験対策　標本調査（３年生　８章）

【０】出題傾向

別紙の「　入試情報　」参照。

【１】教材説明

A　基本問題練習　…　教科書で学習する内容（用語、問題）をカバーできます。
B　公立過去問　…　どんな形式で出題されるかを知り、解けるようにしましょう。
C　公立類似問題　…　他県の問題です。どこも似たような出題形式なので、練習になります。
D　重要問題（難関私立対策）…　ありません。

【２】優先順位表

◎　＝　最優先　、　△　＝　挑戦（◎の次の段階）　、　▲　＝　優先順位低い
無印　＝　◎や△が解けない場合は、ここへ戻る。

	プリント	Ⅰ　公立準備	Ⅱ　公立平均	Ⅲ　公立８割	Ⅳ　難関私立
A	基本問題				×
B	公立過去問				×
C	公立類似				×
D	重要問題	×	×	×	×

※そんなに量がないので、ABC すべて一度やってみましょう。1 時間もあれば十分です。

【３】先生たちより

～全員へ～
　１時間も勉強すれば、確実に得点できる「　コスパの良い　」単元です。最近５、６年で３回出題されている出題比率を無視しても良いです。確実に対策しておきましょう。

Ⅰ　公立準備の人たちへ

　他の単元に比べ、対策の時間が少なくて済みます。学校の問題集と同程度のレベルの問題なので、ここはじっくりと向き合い、得点できる自信をつけるまで取り組もう。

Ⅱ　公立平均点を目指す人たちへ

　比例式の計算で解くのか、割合を用いて解くのか、どちらも同じ考えですが、素早く対応できるようにしておきましょう。また、計算で時間を使い過ぎてはもったいないので、手際よく正解できる計算の工夫を身に着けておきましょう。（ヒント　…　内項の積＝外項の積の計算は、ここでは遅いです。）

Ⅲ　公立８割以上を目指す人たちへ

　落とせませんね。あえて言うなら、できると思っていて対策するのを忘れてしまうことだと思います。

Ⅳ　難関私立を目指す人たちへ

　このレベルを突破していく人たちは、カバー率が格段に高いと思います。教科書の内容からテクニックから、高校数学で使う知識から、趣味のレベルで数学を楽しんでいる人たちです。そこに勝つためには、そこへ踏み込まねばなりません。好き嫌いや対策忘れの次元ではないというレベルです。
　しっかりとここもおさえ、自校の過去問だけでなく、全国の難関過去問でレベルアップしていって下さい。